

# 県土づくりの基本方針 (取組状況)

# ①自然環境との調和と循環型社会への対応

## 平成22年度の主な取組状況

### ●豊かな自然環境の保全と調和

大分県の豊かな自然環境を保全し、次世代に引き継いでいくため、公共事業の実施に当たっては、事前に「環境影響評価法」や「大分県環境影響条例」に基づいて十分な対策を検討するなど、自然環境の保全と調和に努めています。  
 法や条例の対象とならない比較的小規模な事業についても、「大分県環境配慮推進要綱」に基づいて、環境に対する配慮に取り組んでいます。  
 また、23年度からは上記の対象とならない小規模な道路・街路事業についても、「大分県自主的環境配慮指針」を適用することで、更なる環境や景観に配慮した事業の取組を進める予定です。

22年度は、竹田水害緊急治水ダム建設事業(玉来ダム)において、大分県環境配慮推進要綱に基づく「環境影響評価」等を実施しました。

竹田水害緊急治水ダム建設事業(玉来ダム)では、以下の事項などに配慮することとしています。

○工事着手前に実施した環境調査において、計画地近傍に多くの希少野生動植物が確認されました。

- 動物
  - ほ乳類 (キタシロウサギ、ムサビ、ハクネミなど)
  - 鳥類 (クマタカ、オドリ、ハクマ、サバ、ヤマドリ、カヨビなど)
  - は虫類 (クガメ、イガメ、カキヒ)
  - 両生類 (オオサンショウウオ、イモ、ニホンカエル、トサマガエルなど)
  - 昆虫類 (ゲンバントム、ムシヤマ、コガタゲンゴウなど)
  - 魚類 (ヤマメ、アマゴなど)
- 植物
  - マツバラン、ヤブソテツ、キヌシロクサ、イロクサ、ミヤコアイ、ウダカサウなど

21年度調査においてペア生息が確認された希少猛禽類クマタカについて、22年度にはその生息・繁殖状況把握のための現況調査を行いました。

事業実施地域は動物の生息や、繁殖環境の場であるとともに連続した移動環境の場として重要な地域に該当することが懸念されることから、今後は専門家と協議しながら必要な措置を執ることにより野生動物の繁殖・生息環境を保全するよう配慮します。



クマタカ



### ●循環型社会への対応 ～建設リサイクルの推進～

建設リサイクルを推進するにあたり、公共建設工事においては、対象となる建設廃棄物や建設発生土などの、発生量の抑制、再利用、減量化を図り、適正に処理することが重要です。  
 そのため、県では、公共建設工事におけるリサイクル原則化ルールを定め、コンクリートやアスファルト等指定建設副産物の工事現場からの搬出にあたり再生資源化施設への搬出などを定め、積極的に再生資源化に努めています。  
 また、建設発生土に関しては、国や市町村と連携し、発生土情報交換システムの利用や建設発生土利用調整会議の開催などにより、盛土や埋立土材として工事間流用をすることで、有効利用に努めています。

21年度に実施した、建設副産物実態調査(全国調査)の結果を、九州地方建設副産物対策連絡協議会が取りまとめ公表した県内の建設リサイクル等の状況は下表のとおりで、17年度と比較して若干減少しているため、今後は国や市町村との連携強化を図り有効利用率等の向上に努めます。

	14年度	17年度	20年度
アスファルトコンクリート塊 再資源化率	98%	98%	96%
建設発生木材 再資源化・縮減率	88%	92%	88%
建設発生土 有効利用率	72%	80%	77%

## ②効率的・効果的な整備の推進

### 平成22年度の主な取組状況

#### ●公共事業評価の実施状況

公共事業の効率性、透明性の向上を図るため、公共事業評価を各段階で行い、適正な事業の執行に取り組んでいます。併せて、有識者からなる事業評価監視委員会の審議内容等の情報を公開しています。

22年度は、対象事業の現地調査を踏まえ、事業評価監視委員会を3回(第25～27回)開催しました。委員会では、事前評価対象2件、再評価対象20件、事後評価対象1件の23事業が審議され、各々の対応方針案について「妥当」であるとの審議結果が知事あてに答申されました。



【事業評価監視委員会の状況】



【現地調査の状況】

#### ●構想段階からの緊密な地域連携の推進

県土づくりにあたっては、事業の各段階において、わかりやすい説明と、地域の意見やニーズの把握に努め、地域と一体となった事業の推進に取り組んでいます。

19年度から、地域住民と土木事務所等行政関係職員が意見交換等を行い、社会資本整備事業に対する理解や、施設の維持管理への参加を促進するために「地域協働型土木行政推進(土木未来チャレンジ)事業」に取り組んでいます。22年度は、27の地域で事業を実施しました。

国東市赤根富来浦線において、民地に存在する支障木を地域と協働で除去しました。中津市においては、渋滞解消のため大型車迂回ルートについて地域と意見交換および社会実験を行いました。豊後大野市においては、河川計画について行政と地域の協働による検討会を開催し意見交換を行いました。また、九重町では、小学生と共に水質浄化作業を行い、水質浄化について勉強するなど、地域と一体となった事業の推進に取り組みました。



## ●コスト削減の推進

厳しい財政状況の下で、良質な社会資本の整備を着実に進めていくために、16年11月に「大分県公共事業コスト構造改革プログラム」を策定し、公共事業のプロセスをすべて見直す「コスト構造改革」に取り組んできました。  
更に22年9月には「大分県公共事業コスト削減構造改善プログラム」を策定し、コスト重視の取り組みから、コストと品質の両面を重視した取り組みへと転換を図り、県民の満足度向上を目指します。  
22年度のコスト削減率の実績は現在算出中ですが、14年度の標準的な公共事業コストと比較した21年度のコスト削減率の実績は、12.4%となっています。

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
コスト削減率	12.9%	12.4%	算出中

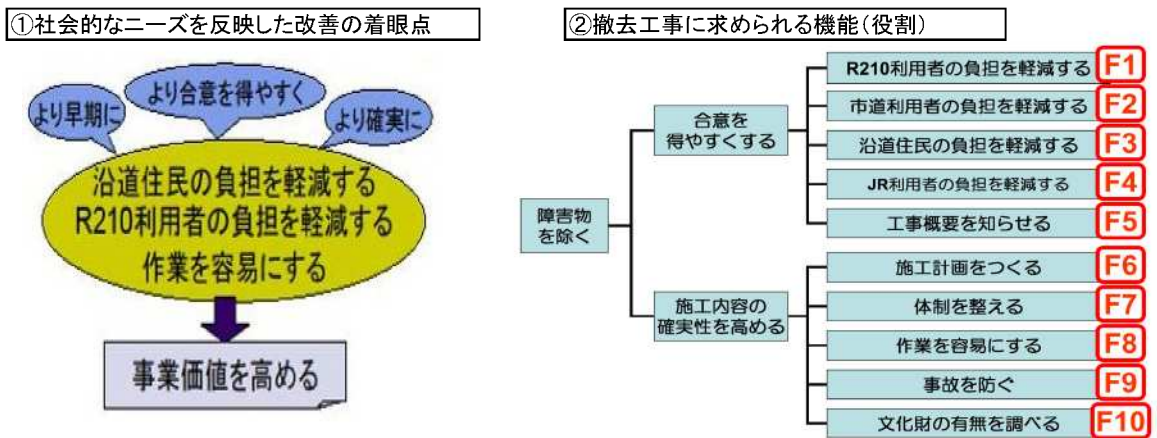
### 1. VE方式の活用(設計の最適化)

これからの公共事業では、地域の実情に即した道路構造など、個別の機能に応じた効率的な整備を図っていく必要があり、そのためには、使用者のニーズを十分に踏まえることが重要となります。  
そのための手法として、設計VEを活用し、コスト削減と併せて、良質で価値ある社会資本の整備を推進しています。  
※VE(バリュー・エンジニアリング): 最低のライフサイクル・コストで、必要な機能を確実に達成するために、製品やサービスの機能的研究に注ぐ組織的努力

#### 【設計VE事例】

大分駅周辺の連続立体交差化に伴って、国道210号の田室町跨線橋の撤去工事が必要となりました。この陸橋は1日あたり5万台を越える交通量があり、撤去工事による長期間の全面通行止めは社会的影響が非常に大きいことから、設計VEを適用し、全面交通止めの期間をできる限り短縮する改善に取り組みました。

#### 【具体的な改善内容】



#### ③主な改善点

- 主に焦点をあてた機能(役割)
- F3の『沿道住民の負担を軽減する』
  - F8の『作業を容易にする』

- 環境に配慮した低騒音、低振動の機械を使用する。  
・防護柵を工夫して防音シートを施す。
- 現場内に工事用道路をつくり、複数の場所で同時に工事を行う。  
・一部の工事を全面通行止めの前に行う。

◆その他にも色々な改善のアイデアを出して、当初計画していた全面通行止め期間を約4ヶ月間短縮できました。また、約5千万円のコスト削減にもつながりました。

### 2. 電子入札の推進(調達最適化)

入札事務の効率化、受注者の移動コスト削減を図るため、18年度から電子入札を試行、19年度から完全導入しました。また、21年4月から県内全ての市町村との共同利用を開始しています。

## ●公共工事の品質確保

17年4月に施行された「公共工事の品質確保の促進に関する法律」、及び18年5月に改正された「公共工事の入札及び契約の適正化を図るための措置に関する指針」の定めにより、公正な競争による公共工事の品質確保を促進するため、総合評価落札方式の拡充など入札制度の改正を行っています。

#### ■総合評価落札方式の実施状況

年度	対象工事	試行件数
平成20年度	予定価格5千万円以上	158件
平成21年度	予定価格5千万円以上(一部工事で予定4千万円まで拡大)	199件
平成22年度	建築一式工事 : 予定価格1億円以上 建築一式工事を除く: 予定価格5千万円以上	173件
平成23年度	建築一式工事 : 予定価格1億円以上 建築一式工事を除く: 予定価格5千万円以上	120件 (予定)

#### ■入札方式と落札者決定方式

予定価格	入札方式	落札者決定方式
23億円以上	一般競争入札[WTO対象]	総合評価落札方式
5千万円以上~23億円未満	一般競争入札[要件設定型]	
4千万円以上~5千万円未満	通常指名競争入札	価格基準方式(価格のみ)
4千万円未満		

### ③施設の適切な維持管理と長寿命化

高度経済成長期に集中的に整備された社会資本の高齢化にともなう更新時期の平準化やトータルコストの縮減などを旨とし、施設の点検・修繕計画の策定に取り組むとともに、道路や河川の草刈りなどの施設維持について、ボランティア団体等との連携に取り組んでいます。

#### 平成22年度の主な取組状況

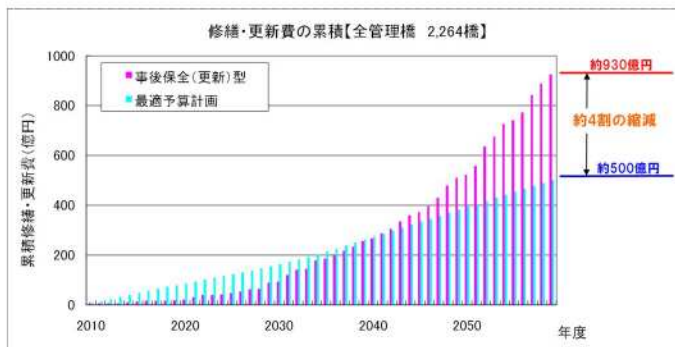
##### ●橋梁長寿命化維持管理計画

社会資本のうち、資産価値が高く、かつ損傷の社会的影響が大きい橋梁について、「アセットマネジメント」の概念に基づく維持管理手法の導入をめざして、19年度から21年度の3箇年で橋梁毎の点検計画と補修計画を定める大分県橋梁長寿命化維持管理計画を策定し、22年度も計画に基づき定期点検を実施しました。

従前の事後保全型から予防保全型の維持管理へ転換することで、道路ネットワークの安全性・信頼性を確保するとともに、橋梁の長寿命化によるトータルコストの縮減と予算の平準化を図ります。

- 事後保全と最適予算計画との比較  
(『大分県橋梁長寿命化維持管理計画』より)

##### 事後保全：補修等を行わず橋令60～100年で更新した場合



【定期点検状況】

- 注1) 文献等で一般的に示される既設橋の橋梁寿命(60年～100年)を参考に、管理橋を60～100年の間で段階的に更新した場合の更新費を積み上げたものです。
- 注2) 本検討は、平成21年3月現在の全管理橋2,264橋に対して算定したものであり、将来の管理橋の増減については考慮していません。

##### ●大規模施設の計画的な保全工事

県有の大規模施設を長期に有効利用し、さらに建替え時期を延伸することなどによるトータルコストの縮減を図るため、19年度から、県の他部局が所管する大規模施設(建物や設備)についても、土木建築部が専門的な見地から計画的な保全計画の策定や保全工事を行うこととしました。

##### 【対象とする県有施設】

- ・県庁舎、県立芸術文化短期大学
- ・総合体育館
- ・マリナルチャーセンター
- ・県立図書館
- ・別府コンベンションセンター
- ・総合文化センター
- ・大分スポーツ公園総合競技場 など17施設

22年度は、県立図書館の外壁改修を行いました。

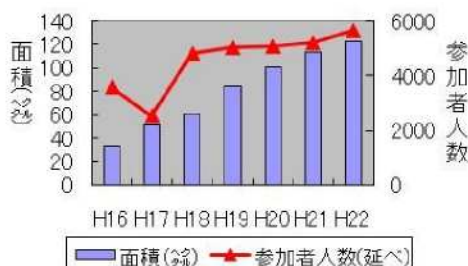


【県立図書館の外壁改修】

##### ●ボランティア団体との連携推進

地域住民の道路や河川愛護の気運を醸成するとともに、住民との協働による効果的な維持管理体制づくりを進めるため、道路や河川の草刈りなどの環境美化に主体的に取り組むボランティア団体や自治会等に対し、活動経費の一部を支援しています。

22年度は、ボランティア活動を行いやすく、より参加しやすい環境を創設するため、継続的に道路の草刈りを取り組んでいる団体の表彰や、草刈り以外の美化・維持活動への支援対象の拡大など、ボランティア団体の結成や育成の支援を行いました。



##### 【道路の草刈り活動等への参加状況】

(19年度からは道路愛護ボランティアサポート事業により実施)



【道路の草刈り活動の状況】

## ④危機管理体制の充実と総合的な防災対策の推進

突発的な事故や災害が発生した場合に備えて、速やかな対応と早期復旧への体制づくりを進めています。また、住民の防災活動や早期避難を支援するため、災害想定区域などを記したハザードマップの周知や、雨量・水位などの防災情報の提供を進めています。

### 平成22年度の主な取組状況

#### ●応急危険度判定士等の登録

震災時等の家屋や宅地、斜面などの被害状況の把握や、所有者への危険度の周知のため、県では民間の有資格者にも働きかけて、応急危険度判定士等の災害ボランティアの登録を進めています。

#### 【応急危険度判定士等の登録状況】

(平成23年3月末現在)

・ 応急危険度判定士	719人
・ 被災宅地危険度判定士	315人
・ 斜面判定士	34人

#### ●防災対策の強化

○土木建築部の危機管理体制については、職員の対応を徹底するため、土木建築部危機管理マニュアルを策定し、19年度から運用しています。

22年度は休日等の突発災害などに対応した初動体制の強化や、通常の勤務時間外の異状時の対応(『気づきの対応』)、安岐ダム・行入ダムの水防体制の補完など災害体制の強化を図りました。

○道路以外の県民からの要請に対して、優先度の高い案件などについては『安全・安心な地域づくりサポート事業』などを実施しており、迅速に対応することで被害の拡大を未然に防ぐなど効果を挙げています。



◇管理道の小規模な補修



◇災害拡大防止のための応急処理

#### ●適切な情報提供の実施

○災害関連情報の充実: 土砂災害危険情報(4月)、河川水位情報(7月)のメール配信を開始しました。

○国土交通省が河川や道路を管理するために、県下各地に設置している監視用カメラの映像を、豊の国ハイパーネットワーク等を利用し、県や市町村でも閲覧できるシステムを18年度に開発し、現在236台のカメラ映像が閲覧可能となっています。

豪雨時や地震時等にリアルタイムで正確な現地情報を入手できることから、国・県・市町村が一体となった即応性の高い防災体制の確立に寄与しています。



【防災映像共有システムの画像】



【道路規制情報提供サービスの画像】